

伝統文化親子教室事業

令和6年度要求・要望額 2,568百万円
 (前年度予算額 1,489百万円)



現状・課題

次代を担う子供たちに対して、茶道、華道、和装、囲碁、将棋、五節句等の伝統文化・生活文化・国民娯楽（以下「伝統文化等」という。）を継承・発展させるため、計画的・継続的に体験・修得できる機会を地域偏在を解消しつつ提供する。将来にわたり子供たちが文化芸術に継続して親しむことができる機会を確保することにより、子供たちの豊かな心や文化的な伝統を尊重する心の育成を図り、創造力と感性を備えた豊かな人間性を涵養する。

過疎化や少子高齢化等の社会状況を背景として、地域の伝統行事や芸能の担い手が減少し、継承が困難となっている状況に鑑み、これらを支える人材の育成等に繋げる。



国見町伝統文化親子体験フェスタ
 (地域展開型)



戸塚書道①親子教室
 (教室実施型)

事業内容

子供たちが親とともに、地域の茶道、華道、和装、囲碁、将棋などの伝統文化・生活文化等を計画的・継続的に体験・修得できる機会を提供する取組や、伝承者養成に直結する取組を支援

地域展開型

(体験機会の提供・幅広い参加を促す)

教室実施型・統括実施型

(修得機会の提供・継続的实施)

伝承者養成直結型【新規】

(伝統文化等の確実な継承・発展)

地域展開型 1,164百万円 (159百万円) 【拡充】

- ・実施主体：地方公共団体及び地方公共団体を中心とする実行委員会等
- ・事業開始年度：平成30年度

地方公共団体 16団体× 5百万円

29団体× 5百万円

実行委員会等 4団体×11百万円

56団体×16百万円

教室実施型 1,016百万円 (1,040百万円)

- ・実施主体：伝統文化等に関する活動を行う団体（伝統文化関係団体）等
- ・事業開始年度：平成26年度

統括実施型 197百万円 (197百万円)

- ・実施主体：統括団体等
- ・事業開始年度：令和3年度

伝承者養成直結型 27百万円【新規】

- ・実施主体：伝統文化等に関する活動を行う団体（伝統文化関係団体）等
- 3地域（東京・大阪・沖縄等）× 9百万円
- ・事業開始年度：令和6年度

○審査経費等 163百万円 (92百万円)

審査業務のほか、教室に参加した子供や保護者、指導者を対象に事業実施について調査等を行う。

アウトプット (活動目標) 事業実施団体数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教室実施型	3,800	3,500	3,500
統括実施型	15	15	15
地域展開型	40	45	105
伝承者養成直結型	-	-	1~3

短期アウトカム (成果目標)

伝統文化等を体験する子供の数の増加

- 教室実施型 70,000人
- 統括実施型 7,400人
- 地域展開型 4,500人
- 伝承者養成直結型 50人 (令和5年度見込)

中期アウトカム (成果目標)

○教室実施型・統括実施型
 伝統文化親子教室事業に参加した子供の意識が肯定的に変化することを目指す。

○地域展開型
 地域展開型の実施によって協働した団体の数を増加させる。

長期アウトカム (成果目標)

○教室実施型・統括実施型・伝承者養成直結型
 参加した子供が伝統文化等に関する活動等、継続的に伝統文化等に携わっていることを目指す。

○地域展開型
 参画した指導者、保護者、子供の数の増加